

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 花の家 (さくら棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371200387		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホーム 花の家（さくら棟）		
所在地	〒023-0171 岩手県奥州市江刺田原字大日195-1		
自己評価作成日	令和6年8月25日	評価結果市町村受理日	令和6年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月25日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

第22期(令和6年度)上半期 基本方針並びに活動指針 株式会社江陽 : 原点回帰 グループホーム花の家: できることを確実に
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな農村地域の高台に立地し、系列のデイサービスセンターや居宅介護支援事業所、ヘルパーステーションとが併設され、当該地域において高齢者の在宅支援サービスを一体的に提供できる拠点となっている。地域との連携や交流活動を重視しており、運営推進会議には地域の代表者が多く参加し様々な意見をいただくとともに、避難訓練には地元消防団からの応援が加わるなど良好な関係が保たれている。家族には、毎月の「元気だより」を送付して利用者個々の様子を丁寧に伝え、好評を得ている。また、わざわざタンク車で温泉水を運んで使っており、利用者は温泉を楽しむことが出来ている。敷地内には「花の家」の名称のとおり、花壇が整備され四季折々の花々を楽しむことができ利用者は散歩を楽しむこともできる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の家 (さくら棟)

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	令和6年度の株式会社江陽の基本方針は「原点回帰」であり、当ホームの理念である「楽しく、笑顔で、穏やかに」をより利用者様に体現していたため、上半期の活動方針を「できることを確実に」とし、ゆとりを持って利用者様に寄り添うことができるよう研修等を行っている。	法人の理念である「明るく 楽しく みんな仲良く」を受け、事業所の理念を「楽しく 笑顔で 穏やかに」として、ホール内に掲示して浸透を図っている。また、事業所として上半期の活動方針を「できることを確実に」として各職員が取り組んでいる。	理念はその事業所が目指すサービスの在り方を示したものであり、常に立ち戻る根本的な考え方で、職員が理念を理解し、実践に活かしていくことが大切です。そのため、職員が参加して理念作成を行い定期的に理念の確認機会を持つなど、理念を共有していく具体的な取組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染流行後、初めて地区民運動会の参観を実施することが出来た。利用者様が声を出して楽しそうに応援する姿が見られた。 また、事業所で行った避難訓練に地域の消防団と自治会有志の皆様に参加していただいた。	事業所として地元自治会に加入しており、清掃活動などの行事には職員が参加している。コロナ禍のため地域との交流活動は出来なかったが、今年6月に久しぶりに地域の振興会主催の運動会に招待され、5人の利用者が見学に出かけ楽しんできた。また、避難訓練には地元消防団員も参加しており心強い。なお、小中学校の統合により学校活動を通じた子供たちとの交流が難しくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、区長や自治会長、民生委員等の方々へホームで生活している利用者の状況や支援の方法について意見交換の場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて意見交換の場を設け、ホームの生活の中で利用者の状況を伝えるとともに、意見交換を行っている。	昨年6月から参集での開催を復活している。会議は行政区長や自治会長、消防団分団長、民生委員、家族代表、利用者と市職員で構成されており、地域との連携も考慮したものとなっている。委員からは、介護事故の内容や、避難訓練での具体的な課題などについて積極的な意見が出され有意義な会議となっている。利用者の発言も温かく受け入れられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場に奥州市江刺総合支所副支所長兼健康福祉グループ長に参加していただき、ホームの実情等について伝えるとともに、他施設の情報等をご教示いただき活用させていただいている。 また認定調査で来所された担当者と意見交換している。	運営推進会議には江刺総合支所の副支所長が委員として参加しており、事業所の運営状況については良く理解してもらっている。本庁の介護保険課とは、日常的に電話や訪問によって活発にやり取りしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員一丸となって取り組んでいる。	法人本部で身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に委員会を開催しており、事業所からも委員を選出して参加している。年1回は、各職員が身体拘束に関する自己点検シートを使って振り返りを行い、自らのケアを見つめ直す良い機会としている。丁寧な言葉遣いを心掛けており、スピーチロックはあまり見られていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が意味を理解し日々努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成30年初めまで、成年後見制度を利用している利用者が入居されており、制度に関する知識を有する職員がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様に対し不安や疑問点について十分に説明できるよう時間を確保している。改定に関しては改定理由を文書等で明示し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置し、いつでも意見要望を聞くことができるようにしている。また、HP上でもお問い合わせフォームにて意見を言っていたただけるようにしている。	前回の外部評価で話題となった事業所独自の家族アンケートについて、現在準備中である。家族には毎月、個別の連絡メモを添えた「元気だより」を届けており、コロナで会えなくても様子がわかって安心できたと、好評を得ている。運営推進会議には家族代表も参加するが、あまり意見等は出されず、家族アンケート等に期待している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、代表・センター長・管理者の間で管理者会議を行っており、その際に職員の意見・提案を取り上げ検討している。	職員会議は定例ではなく必要に応じて行っており、その際には職員から様々な意見が出されている。古くなった便座が危険との意見を受けて、便座を交換するということもあった。管理者との個人面談は、年に1回は行うこととしており、運営に関する意見も伺っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位職責をより明確化し給与に反映させている。資格取得に関しても本人の意欲等を勘案し必要に応じた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人財育成の方針として「認知症支援・介護技術の向上」を掲げ、職員一人ひとりに個人目標と毎月の課題を設定し実施している。また、外部から研修の案内が来た時は職員に回覧し参加希望の職員の勤務には配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、法人内にある別事業所との人事交流をととして介護の質の向上に努めている。また他事業所に営業に行った際の情報を共有し活用している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、本人及び家族から要望等を聴取し、それをホームでの支援に活かせるようにケアプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際する事前訪問の際、家族から要望等を聴取し、それをホームで生活いただく際の支援に活かせるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、まずは慣れていただくためのケアプランにて支援し、慣れていただけたら本人への最優先支援事項を職員で協議し、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様が一緒に体操をしたりテレビを見て過ごす中で、笑顔や会話が生まれている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度「げんきだより」で日常の様子を報告したり家族と電話で連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	未だ奥州市はコロナウイルス感染症の感染者数が岩手県内で高い状態の為、完全予約制かつ時間制限での面会を実施している。外出については適宜対応しており、自宅や地域の行事に参加される為に外出される利用者様もいる。	感染症対策のために、現在でも利用者との面会は予約を原則としているが、突発的な来訪にも対応している。受診の際の帰路に自宅周辺などの馴染みの場所を巡って思い出話をすることもある。また、定期的に地域のお茶会に連れ出してくれる家族もいる。訪問理容が2ヵ月毎に来訪しており、新たな馴染みともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流関係を把握し、楽しく会話や交流ができるような席次となるよう配慮している。またユニットは別でも、住んでいる地域が同じで顔見知りの利用者様には合同行事の時に交流していただくようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される場合、必要に応じて関係機関に情報を提供している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴介助時など、職員と利用者様が1対1になる場面で会話をを行った時に本人から聞いた内容を経過記録に記入することで職員同士で情報共有したり、ケアプランに反映させることもある。	半数弱の利用者が、思いや意向を言葉で表せる状況にある。自分の思いを伝えるのに時間がかかり、もどかしい様子を察知した時には、職員はゆったりと丁寧に寄り添ってその思いを受け止めるようにしている。言葉で表せない方には、その仕草などから意向を把握し、対応するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、入居前の担当ケアマネージャーからこれまでの経過や自宅での生活の様子を聞いたり、日常生活から見える本人の状況を踏まえ現状を把握できるように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施記録や一人ひとりの1日の過ごし方を記入した日課表を作成し、現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を踏まえ、ケアマネジャー、計画作成担当者、介護職員で話し合い、ケアプランを作成している。	職員は日常的に意見交換しながらケアに当たっており、3ヵ月毎に居室担当者がモニタリングを行い、それを基にして計画作成担当者と介護支援専門員が計画を更新している。改まったカンファレンスは開催しなくても、必要なスタッフがその場で話し合い記録に残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録と業務日誌、実施記録の特記事項への記入を通じて職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応しようと試みているが、コスト面等、逆に家族の負担が増える場合があり、利用者の意向を傾聴しつつ、できる範囲で事業所内で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりとの日常会話の中で地域資源を把握し、経過記録に記入することで職員間でも情報共有ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たり、ご家族様から希望するかかりつけ医を確認している。かかりつけ医に対しては、受診時、情報提供書を送付し、ホームでの状態をわかりやすくお伝えできるように努めている。	大半の利用者が江刺区内にある協力医療機関であるクリニックをかかりつけ医とし、月1回の通院には職員が付き添って対応している。2名の利用者は、入居前からの開業医等を受診しており、情報提供書を作成して家族に託している。看護業務は、併設のデイサービスの看護師が対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護職員に状況を伝え相談し、その結果にて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居様様が医療機関に入院した際、介護支援専門員が作成した在宅生活情報提供シートを医療機関に提示している。病院を訪問し、状態を確認したうえで関係者等と協議してホームに戻りやすい環境づくりを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時や契約締結時から、ご家族に対し、入居者様の最終的な生活の場、どのように生活したいのかについて時間をかけて聞くようにしている。 重度化や終末期の指針については、事業所の機能としてより適切な介護を受けることのできる施設等へ移っていただくことがご本人にとっての幸せであると思われる。	重度化した場合の対応については、入居時に本人や家族に説明し了解を得ている。看取りは、協力医師の確保ができないこともあり対応していない。重度化してきた場合には特養や老健施設へ移っていただいたり、緊急入院して退所となる場合が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルをホーム内の職員が目にしやすい場所に貼っている。応急手当や初期対応について、マニュアルを作成し共通の認識のもとで訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練を含めた年2回の避難訓練は必ず実施している。6月に近隣の消防団・自治会有志の皆様に参加して頂き行った。また災害時の備蓄品としてカップ麺、水を3日分、消毒用アルコール等を準備している。	市のハザードマップでは浸水等の想定地域とはなっていないため、大雨等の場合でも他に避難することなく、事業所に止まることとしている。6月に行った夜間想定避難訓練では、3人の消防団等の住民が協力者となって応援してくれた。この秋には運営推進会議と併せて訓練を予定している。災害に備え3日分の食料等を備蓄している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の家 (さくら棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様にとって心地いい声がけができるように対応している。	特に羞恥心を抱きやすい排泄や入浴については、プライバシーの確保を重視したさりげないケアを心がけている。排泄に失敗した場合には、敢えて触れることはせずに、さり気なく声掛けし誘導している。カーテンやドアの使用によって他人の目には触れない工夫をしている。利用者の人格を尊重し、「さん」付けで話しかけており、また、職員の言葉遣いについて管理者は基本的には出来ているとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月作品作りを行っているが、好きな色や使いたい色などを聞き、利用者様が好みの物を作るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとり日課表を作成しており、それに沿って過ごしていただいている。レク活動への参加や入浴についてもご本人の希望を伺って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に馴染みの服を持参していただくことで、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に大根おろしを手伝っていただいているが、食事提供の際に「〇〇さんに作っていただいた大根おろしですよ。ありがとうございます。」と声を掛け、感謝の気持ちを伝えている。また、食事の前に職員が献立を説明するようにしている。利用者様に食器拭き等も手伝っていただいている。	運営会社の栄養士が年間を通して献立を作成しており、栄養バランスの良い食事を職員が調理して提供している。利用者は、大根おろしや野菜の皮むき等を手伝っている。おやつ作りでは利用者の好みも取り入れ、パンづくりなどで一緒に楽しんでいる。誕生日にはケーキ作りも行なっている。事業所独自の取組みとして、利用者と一緒に「餃子」を手作りする企画を計画中である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	たんぱく質量等、栄養士が栄養バランスを考慮し作成した献立にて食事を提供している。必要摂取カロリーから算出された量を提供させていただいているが、ご本人が量の変更を申し出る場合もあり柔軟に対応している。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者が毎食後は実施できてはいないものの、就寝前にはほぼ全員がそれぞれの口腔状態に応じたケア実施しており、支援が必要な場合には適宜お手伝いをさせていただいている。 また、毎食後に口腔ケアをしたいという利用者様にはそのように対応させていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用しながら、定時トイレ誘導と声かけを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者様もいる。	全ての利用者がトイレで排泄できており、2名は夜間のみ居室でポータブルトイレを使用している。布パンツ使用で自立が3名で、そのほかはリハビリパンツとパットを併用している。排泄記録を活用しながら声かけや誘導により排泄の自立に向けて支援しているものの、管理者は全体的に緩やかな機能低下がみられるとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録、排便チェック表を活用しながら一人ひとりの状態に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	利用者様の入浴に対するニーズや心身状況に合わせた入浴サービスを提供し、基本的には3日に一度は入浴していただけるようお声がけさせていただいている。 季節行事としてのゆず湯や菖蒲湯も提供している。	昨年までは2日に1回の入浴としていたが、職員の業務改善のために回数を見直し、現在は3日に1回で午前中の中の入浴となっている。菖蒲湯やゆず湯で季節を感じたり、タンク車で運んできた温泉水を楽しむこともでき、利用者に喜ばれている。入浴を好まない利用者に対しても、トイレのついでに入浴に誘うなど、さりげなく誘導して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休んでいたっている。 ベッドも身体状況に合わせた物を使用させていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を確認し、変更があった場合は職員に周知している。また服薬内容表も都度変更している。 処方変更後に状態に変化が認められた場合にはかかりつけ医に上申している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花の家 (さくら棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前と午後に体操とレクリエーション活動を行なっている。食事の後には食器拭き・トレー拭き・おしぼり作りのお手伝いをしてくださる利用者様もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と共に外出される利用者様もいる。行事としてドライブは必ず計画しており、利用者様に好評いただいている。 希望があれば外散歩もするが、好まれない利用者様もあり、その際はご本人の意思を尊重している。	今年度はドライブを2回、つつじとアヤメの時期それぞれ実施して楽しんだ。11月には紅葉狩りを予定しており、出かけた時にパン屋さんに立ち寄るのを今から楽しみにしている。事業所の周りは自然豊かで、散歩が楽しめる環境ではあるが、夏の間は暑さのため屋外へ出る機会が少なかった。管理者は、涼しくなってきたのでこれから戸外の空気を楽しむ時間を増やしていくとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個人での金銭所持はなく、ご家族からお預かりし管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族に電話をかけたいと申し出があった場合は架電しお話をさせていただいている。敬老会時にお祝いのメッセージを送っていただいている。 お孫さんの写真を送って下さるご家族様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仲の良い利用者様同士でテーブルを囲めるように職員が普段の様子を観察し、ときどき席替えを行いながら過ごして頂いている。これまでに作った作品を掲示することで会話のきっかけにもなっている。	広々としたホールには天窗からの日差しも差し込み、明るく清潔で、ゆったりと過ごせる空間となっている。暑さ対策としてサーキュレーターが天井に設置されており、冬には床暖房で全体が温められる構造になっている。壁面には利用者と職員と一緒に作成した季節感ある作品が飾られており、あたたかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はすべて個室である。 ホール内に長ソファを置いており、外の様子を眺めながら会話をすることができる。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 花の家（さくら棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅から、これまで使っていたものや好みの物 を持参していただいている。利用者様が手 作りの作品や職員が作った誕生日カードも 掲示している。 ご家族様の写真を飾っている利用者様も いる。	各居室にはベッドとクローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられており、利用者は自 宅で集めていたピエロの人形を持ち込んだり、家族写真や作成した作品を壁面に飾るなどして、自分なりにゆ っくりくつろげるよう、居心地のよい居室となっ ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	施設内に段差がほぼ無く、利用者様が自立して安全に移動することができる。食席や居室等に名前を書き、本人がすぐわかるように工夫している。日付け確認のために日にちや曜日がわかるようにホール内に表示し、レク時に一緒に声に出して確認している。		